

【平成16年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	「若者の就職意欲喚起と雇用創出を目的とした沖縄型デュアルシステム開発・試行及び評価モデルの構築」～沖縄の観光産業をモデル～		
学校法人名	学校法人 南星学園		
学校名	サイ・テク・カレッジ那覇		
代表者	遠山 英一	担当者・連絡先	金城 光広 TEL : 098-865-2800
<p>< 事業の概要 ></p> <p>事業の目的：</p> <p>次の目的をもって本事業を実施した。</p> <p>(1) 観光産業に就職を希望する若者の自立と職業観を醸成し、職業能力と人間力を高め、雇用のミスマッチを是正し、就職率を向上させる。</p> <p>(2) 観光産業をモデルに沖縄の自然・伝統・文化を活用した沖縄型デュアルシステムの開発と実施効果の評価を行い、沖縄型ミスマッチ改善推進モデルを構築する。</p> <p>(3) そのモデルを他産業にも適応し、県内の若年者の就職支援に寄与する。</p> <p>事業実施体制：</p> <p>(1) 実施委員会の設置 産・学・官の3者連携により効果的に事業を推進するため、沖縄県総務私学課、沖縄国際大学、沖縄観光コンベンションビューロ -、観光企業、沖縄県専修学校各種学校協会、協力専修学校の代表13名をもって事業実施委員会を組織し、委員会の企画の下で事業を実施した。</p> <p>(2) 分科会の設置 実施委員会に、調査分科会、研究開発分科会、講座分科会を設置し、事業の構想立案、講座テ - マの設定、講師の選定、カリキュラムの開発及び事業実施に必要な調査研究を行った。</p> <p>日程：</p> <p>(1) 事業期間：平成16年7月12日～平成17年3月18日</p> <p>(2) 講義期間：平成16年9月21日～10月30日</p> <p>(3) 企業実習：平成16年11月1日～12月10日 野外学習：沖縄本島北部・首里城・南部戦跡・宮古島・石垣島・西表島・慶良間諸島</p> <p>(4) 成果報告会：平成17年3月16日</p>			

講座のテ - マと講師

講座 概念	テーマ	時 間 数	担当講師
基礎知識(63時間)	()沖縄の自然と気候風土	33	
	沖縄の地質と地理	6	名城 敏
	沖縄の気候・水と空気	6	遠山 英一
	沖縄の天然記念物－貴重な野生動物	3	江田 文子
	沖縄の植物相と森林	6	島袋 守成
	沖縄の食物と栄養	6	新城 澄枝
	沖縄の健康と長寿	6	鄭 圭城
	(2)沖縄の歴史と文化	24	
	沖縄の歴史と文化の特徴	6	孫 微
	八重山及び西表島の歴史と芸能	6	當山全堂
	沖縄の伝統芸能	6	當間 一郎
	沖縄の工芸		新垣吉紀
	エコツーリズムと沖縄の自然・文化遺産	6	米谷 保彦
	職業観 勤労観の醸成(24時間)	(1)若者の自立と職業観	3
県内雇用の雇用情勢			
求職者と求人とのミスマッチの背景と要因			
職業自立に必要な4つのH			
目標実現のプロセス			
(2)就職力アップとライフデザイン		6	節田 敦
職業とは			
企業が求める人材像			
就職活動のポイントと成功の公式			
モチベーション			
AIDMA シート			
自己理解について			
WILL・CAN・MUST シート			
自分のキーワードの整理			
職業志向の整理			
生活志向の整理			
(4)企業の組織と経営		3	西里 喜明
企業(会社)の目的			
企業の組織とルール			

	企業間競争の現実		
	企業内の専門性と強調性		
	企業経営と競争戦略		
	(5)職場内の人間関係	3	西里 喜明
	職場機能の役割分担		
職業観 勤労観の醸成	職場の指揮命令系統		
	上司と部下		
	職場内の情報伝達		
	職場の組織風土		
	(6)職場への適応	3	仲尾次 嗣明
	組織のルールときまり		
	目標と成果管理		
	組織の個人の役割		
	チームワークとは何か		
	常にベストを尽くせ		
	(8)職業と自己管理	6	又吉 正治
	仕事を楽しくする生活管理		
	仕事の能率を高める体調管理		
	仕事に打ち勝つ体力づくり		
	社会性を高める情報蓄積と読書		
ストレスに負けない精神力			
ストレスを癒す余暇活動			
職業倫理観を育てよう			
職業技術(1時間)	(1)コンピュータ活用と情報処理	30	野村・仲村梁
	(2)沖縄観光概論	6	岩佐 吉郎
	世界のツーリズムの動向		
	沖縄観光の現状と動向		
	(3)職業実務知識	27	
	ホテル業務と実務	9	宮里 朋子
	航空業務と実務	9	親川 千智
	旅行業務と実務	9	奥間 耐子
	(4)接遇とマナーの技術	6	佐藤田鶴子
	(5)英語によるコミュニケーション技術	6	仲尾次 嗣明
	(7)発表・プレゼンテーションの技法	6	豊川 雅弘
野外実習(5)	(1)沖縄本島北部	10	
	(2)首里城・南部戦跡	8	
	(2)宮古島	16	
	(3)石垣島	22	
	(4)西表島	16	
	(5)慶良間諸島	24	
講座時間数		264	

企業実習時間数	240
合計時間数	504

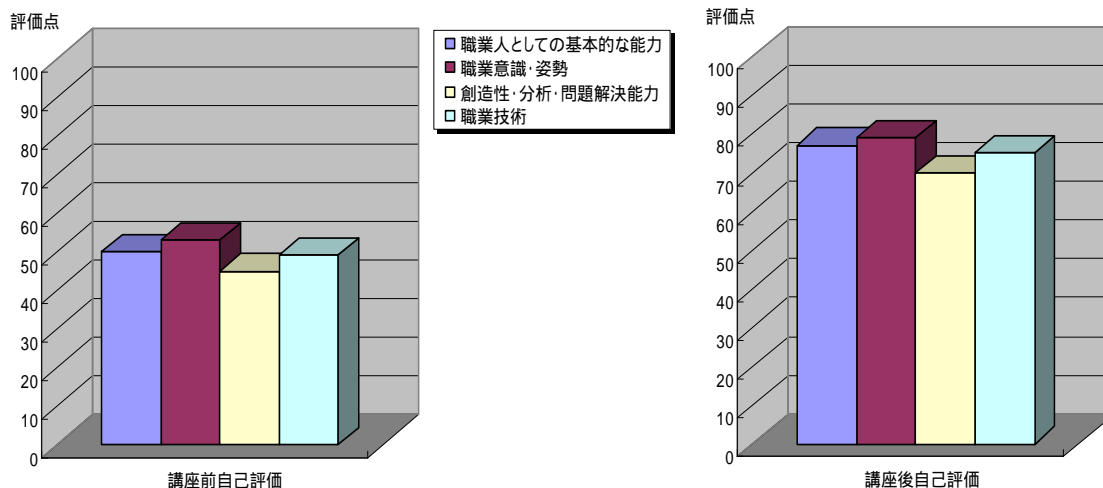
< 成 果 >

(1) 講座の成果

講座の効果を具体的に知るため、講座直前と講座直後に同一内容で受講生に自分自身に関する自己評価を点数で数値化し、受講前と受講後の変化を測定し受講生の講座受講前と受講後の変化を測定し、成果の指標とした。

講座の成果測定表

- 職業人としての基本的な能力
- 職業意識・態度・姿勢（ヒューマンスキル）
- 創造性・分析力・問題発見解決力
- 職業技能



受講前の総合平均点は、50点であった。講座終了後の総合点は75点であった。講座終了後は講座前より25点も上昇した。最も改善度が高かった受講生は受講前42点、受講後92点、50点アップした。受講後のグラフは4項目全において、評価点数が大幅にあがり、自分自身への自身度を高め、内面的に大きく成長した姿が伺える。

(2) 企業実習の成果 (企業実習先：ホテル・旅行代理店・空港業務)

企業実習前に、学校・実習生・企業が同席し、企業実習の趣旨、実習生の希望、企業側の業務内容や受入方針について話し合う。実習に関して、理解と認識を共有する必要がある。その上、企業側にカリキュラムを作成してもらい、実習生と事前調整を行うことが肝心である。このプロセスを省くと、企業側・実習生のミスマッチを起こし、効果的な企業実習を阻害する要因になる可能性がある。

- 今後の課題
- 一・講座と実習の組合せサイクル
 - 一・企業実習に有給制導入
 - 一・3者調整の徹底

受講生 定員 15 人にてスタート

講座終了人数 15 人中 12 人（講座途中リタイア 2 人・講座終了後就職 1 人）

企業実習 12 人 （一身上都合リタイア 2 人・途中リタイア 1 人・就職 1 人）

全カリキュラム終了： 9 人

就職内容 12 人中 観光産業就職 4 人（旅行代理店 2 人 ホテル 2 人）

貿易関係 1 人

観光関連留学 1 人（オーストラリア：エコ留学）

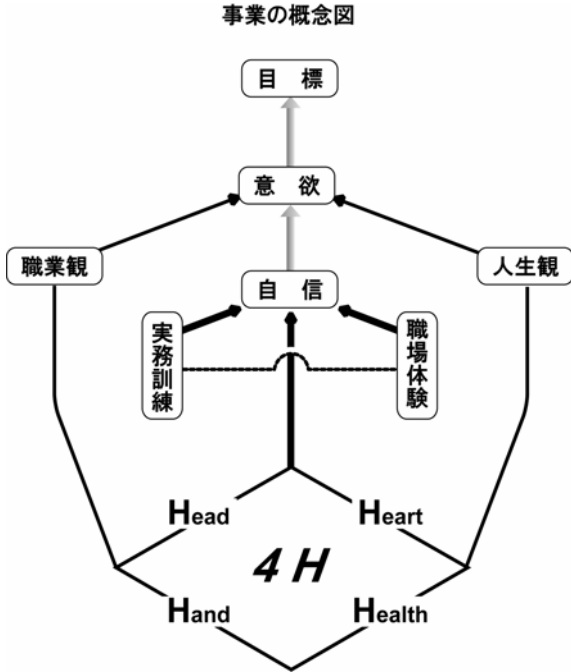
観光関連大学進学 1 人（沖縄県内大学）

医療事務 1 人

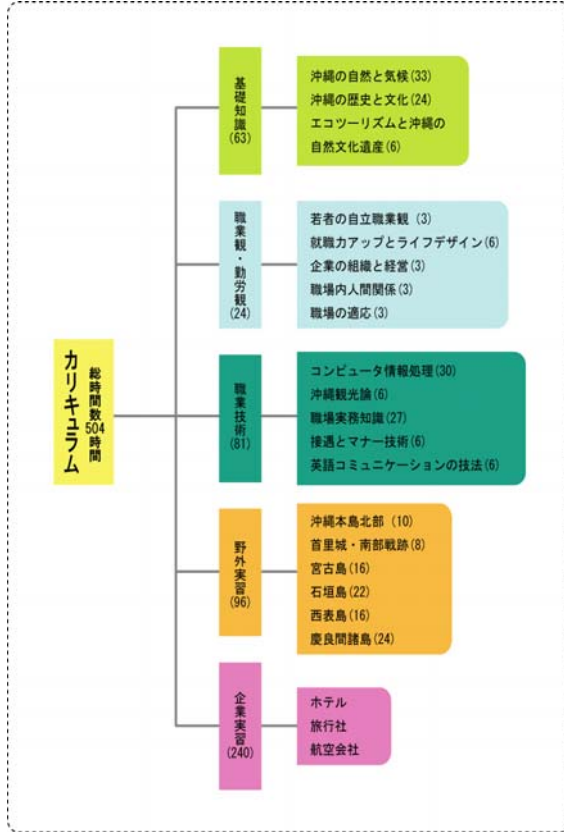
販売業務 1 人

合計 9 人の受講生が就職・留学・進学となりました。

事業の概念図



カリキュラムの構成と体系



講座の成果測定表

